

思い感じたことを
徒然なるままに

くんぱるだより

H28 1/31 NO.59



☆ あめにもまけず、かぜにもまけず

2016年がスタートしました。改めまして、本年もよろしくお願い申し上げます。今年もくんぱるのハウスは変わらず、子どもたちの成長の肥やしになるものを発見し、行っていききたいと思います。

ご存知の通り、ご利用ガイドの初めにも載っております、「自立するための基礎作り」がくんぱるの一番の理念です。これは子どもたちに対する一番の思いです。ただ、「自立」と一言と言っても漠然としており、具体的にどんな事ができればいいの？とかどんなスキル、能力が必要なの？と我々もざっくりとしか説明できない部分があるかと思っています。果たして今、自分は自立できているのか・・・と思うと正直わからないかもしれません。



そこで、少し前に見つけました「AQ」、逆境指数というものを少し書いてみたいと思います。

皆さまも一度は耳にしたことがあるでしょう「IQ」(知能指数)「EQ」(心の知能指数)と同じような類でしょうか、最近では様々な〇〇指数があるようで、その中の一つが「AQ (Adversity Quotient)」であり、これは「大きな悲劇から小さな怒りまで、あらゆる種類、レベルの逆境に対応するための行動パターン」のことです。AQを構成する要素は4つで、「コントロール、責任、影響の範囲、持続時間」であり、さらに、人はその逆境の対処方法で「脱落組」「キャンパー」「登山家」の3タイプに分けられるようです。キャンパーとは逆境が重なると逃げ出したり、現状維持しようとするタイプのことで、80%以上はここに属するといわれます。また、AQの分類として、



レベル1 エスケープ・・・試練に直面すると逃避する
レベル2 サバイブ・・・なんとか生存する
レベル3 コープ・・・ただ単に対処する
レベル4 マネージ・・・逆境を管理し、解決しようとする
レベル5 ハーネス・・・慈養し、逆境を栄養源にさらなる成長をする

に分類されます。
なんかビジネス寄りの話っぽいですが、広い視点で見てのあらゆる場面での問題解決能力の話としてとらえられます。「自立」というのが、自分のことは自分でするものであるなら、特にこの問題解決する力、ピンチに直面した時に逃げずに立ち向かって対応ができるかどうか「自立した」と思える基準なのかもしれません。会社組織でもすぐに「無理」や「できない」「めんどくさい」という人間がいると嫌でしょうし、あかんなあと皆さんも思うことでしょうか。もしそれが我が子だったら、情けない、はずかしいと思わないでしょうか？私達が子どもたちと過ごせる時間はほんの一部。ずっと先の姿を想像し伝えていかないとと思っています。

社会に巣立つ過程で、はたまた、自分の人生を全うするまでに、何度も解決せねばならない局面はやってきます。小学校は社会の縮図とはよくいったもので、いろいろな年齢層、相手、環境、ルール等、大人になっても類似した場面が多数小学校生活には存在します。よくよく思い返してみると今大事だなんて思うことって、大概小学生時代に言われたことですよ？となると、昔と今の時代背景の違いはあっても、人としての考えの大事な部分は変わらないはず。



なんでも大人が「すぐに手を貸す、口を出す」のではなく、子ども自身が問題を解決できるような立ち位置で子どもに接することが「自立」への基礎なのかと思っています。受動的ではない自主的な生活ができるように、本年もこの愛してやまないくんぱるの子どもたちと一年過ごしていきたいと思っています。^_^

お知らせ

・2/20 (土) のくんぱるスキーご参加おまちしております。そのため、2/6 トランポリン、2/13 遠足となりますのでお間違いのないようお願い申し上げます。